安全に関する情報リスト

施設の基本情報													何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）						
No.	施設	A　施設の使用目的	B　主なインベントリ等 ✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等						C　建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1．設計津波が来たら何が起きるか ✓建家内浸水の可能性 ✓浸水範囲 ✓安全機能の喪失の程度	2．設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の被ば影響評価(5.の防護対策①の実施も考慮）	3．当該施設に安全上期待する機能と、そのための設備・機器	4．安全上の機能を維持すべき期間	5．設計津波に対する防護対策（防護対策①）	6．潜在リスクの大小、対策効果、緊急性を踏まえた対策の優先度	7．L2津波に対する防護対策（防護対策②）
			性状・貯蔵/保管状況等			インベントリ			建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性							
Ⅰ.放射性物質を内包する施設																			
1	分離精製工場 (MP)	使用済燃料の貯蔵、高放射性の廃液の貯蔵等	使用済燃料	低濃縮ウラン燃料	燃料集合体 （貯蔵プール） BF	112体	約17.2 tU	FP (Cs-137等) Pu U	A類	RC造 （一部屋根部はS造）									
				MOX燃料		153体	約23.5 tMOX	FP (Cs-137等) Pu U											
			ヨウ素フィルタ （AgX）		保管容器に保管 4F （T.P.+16.44m）	29基		FP （I-129）											
2	分析所 （CB）	各工程の試料の分析、放射線管理	分析廃液		溶液（貯槽） BF1	11m^3	4.2×10^{12}Bq	FP (Cs-137等)	B類	RC造									

施設の基本情報												何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）						
No.	施設	A　施設の使用目的	B　主なインベントリ等 ✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等					C　建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1．設計津波が来たら何が起きるか ✓建家内浸水の可能性 ✓浸水範囲 ✓安全機能の喪失の程度	2．設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の被ば影響評価(5.の防護対策①の実施も考慮）	3．当該施設に安全上期待する機能と、そのための設備・機器	4．安全上の機能を維持すべき期間	5．設計津波に対する防護対策（防護対策①）	6．潜在リスクの大小、対策効果、緊急性を踏まえた対策の優先度	7．L2津波に対する防護対策（防護対策②）
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ			建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性							
3	廃棄物処理場（AAF）	低放射性の液体廃棄物の処理，低放射性の固体廃棄物の処理及び低放射性の液体廃棄物の放出	低放射性濃縮廃液	廃液（貯槽） BF	約572 m^3	～10^{14} Bq	C-14 FP （I-129、Cs-137等）	B類	RC造									
			低放射性廃液	廃液（貯槽） BF	約1,166 m^3	～10^{11} Bq	C-14 FP （I-129、Cs-137等）											
			廃溶媒	廃液（貯槽） BF	約19 m^3	～10^{10} Bq	FP （Cs-137等）											
			低放射性固体廃棄物	カートンボックス、袋 1F、2F	約20 t	～10^{10} Bq	FP （Cs-137等）											
			ヨウ素フィルタ （AgX）	保管容器に保管 1F	30基		FP （I-129）											
			ヨウ素フィルタ （活性炭）	保管容器に保管 1F	3基		FP （I-129）											
4	クリプトン回収技術開発施設（Kr）	クリプトンガスの貯蔵	クリプトンガス	気体（シリンダ） BF1	4本	9.0×10^{14} Bq	Kr	B類	RC造									
5	高放射性固体廃棄物貯蔵庫（HASWS）	高放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物、ハルエンドピース等	ハル缶等 （セル）	約2,884本	～10^{15} Bq	FP （Cs-137等）	A類	RC造 （上家はS造）									
			分析廃ジャグ等	容器 （セル）	約1,391本		FP （Cs-137等）											
6	ガラス固化技術開発施設（TVF）	高放射性廃液のガラス固化、ガラス固化体の保管	ガラス固化体	ガラス固化体 （保管ピット6段積） BF	316本	T-α　：約6.0×10^{13} Bq T-βγ：約5.7×10^{15} Bq	FP （Cs-137等）	A類	SRC造									
			高放射性廃液	廃液（貯槽） BF	約3 m^3	約8.8×10^{14} Bq	FP （Cs-137等）											
			ヨウ素フィルタ （AgX）	保管容器に保管 BF2	6基		FP （I-129）											

安全に関する情報リスト

施設の基本情報												何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）						
No.	施設	A　施設の使用目的	B　主なインベントリ等 ✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等					C　建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1．設計津波が来たら何が起きるか ✓建家内浸水の可能性 ✓浸水範囲 ✓安全機能の喪失の程度	2．設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の被ば影響評価(5.の防護対策①の実施も考慮）	3．当該施設に安全上期待する機能と、そのための設備・機器	4．安全上の機能を維持すべき期間	5．設計津波に対する防護対策（防護対策①）	6．潜在リスクの大小、対策効果、緊急性を踏まえた対策の優先度	7．L2津波に対する防護対策（防護対策②）
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ			建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性							
7	プルトニウム転換技術開発施設 (PCDF)	MOX粉末の貯蔵						A類	RC造									
8	高放射性廃液貯蔵場 (HAW)	高放射性の液体廃棄物の貯蔵	高放射性廃液	廃液（貯槽） BF1	約369.9m^3	$\beta\gamma$：3.8×10^{18} Bq	FP (Cs-137等)	A類	RC造									
9	第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 （2HASWS）	高放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物、 ハルエンドピース等	ドラム容器 （貯蔵ラック10段積） BF	約2,492本	～10^{15} Bq	FP (Cs-137等)	A類	SRC造									
10	アスファルト固化処理施設 （ASP）	低放射性の液体廃棄物の貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液（貯槽） BF2	約92 m3	～10^{13} Bq	FP (Cs-137等)	B類	RC造									
11	アスファルト固化体貯蔵施設 （AS1）	アスフアルト固化体等の貯蔵	アスファルト固化体	ドラム缶 （4本/フレーム収納6段積） BF1～1F	13,754本	～10^{14} Bq	C-14 FP （I-129、Cs-137等）	B類	RC造									
			プラスチック固化体		828本		FP (Cs-137等)											
12	スラッジ貯蔵場 （LW）	スラッジなどの貯蔵	廃溶媒	廃液（貯槽） BF	約34 m^3	～10^{10} Bq	FP (Cs-137等)	B類	RC造									
			スラッジ	廃液（貯槽）	約285 m^3	～10^{9} Bq	FP (Cs-137等)											
13	第三低放射性廃液蒸発処理施設 （Z）	低放射性の液体廃棄物の処理	低放射性濃縮廃液	廃液 （ライニング槽） BF	約849 m^3	～10^{11} Bq	FP (Cs-137等)	B類	RC造									
			低放射性廃液	廃液 （貯槽） BF	約385 m^3	～10^{8} Bq	FP (Cs-137等)											
14	第二スラッジ貯蔵場 （LW2）	スラッジなどの貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液 （ライニング槽） BF	約566 m^3	～10^{13} Bq	FP (137Cs等)	B類	RC造									
			スラッジ	廃液 （ライニング槽） BF	約873 m^3	～10^{9} Bq	FP (137Cs等)											

施設の基本情報												何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）						
No.	施設	A　施設の使用目的	B　主なインベントリ等 ✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等					C　建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1．設計津波が来たら何が起きるか ✓建家内浸水の可能性 ✓浸水範囲 ✓安全機能の喪失の程度	2．設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の被ば影響評価(5.の防護対策①の実施も考慮）	3．当該施設に安全上期待する機能と、そのための設備・機器	4．安全上の機能を維持すべき期間	5．設計津波に対する防護対策（防護対策①）	6．潜在リスクの大小、対策効果、緊急性を踏まえた対策の優先度	7．L2津波に対する防護対策（防護対策②）
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ			建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性							
15	第二低放射性廃液蒸発処理施設（E）	低放射性の液体廃棄物の処理	低放射性廃液（運転時）	廃液（貯槽）	約6 m^3	～10^5 Bq	FP (Cs-137等)	B類	RC造									
16	廃溶媒貯蔵場（WS）	廃溶媒の貯蔵	廃溶媒	廃液（貯槽）BF	約55 m^3	～10^{10} Bq	FP (Cs-137等)	B類	RC造									
17	放出廃液油分除去施設（C）	低放射性の液体廃棄物の処理及び放出	廃活性炭	廃液（貯槽）BF	約1,500 m^3	～10^{10} Bq	H-3	C類	RC造									
			スラッジ	廃液（貯槽）BF	約3 m^3	～10^6 Bq	FP (Cs-137等)											
			廃活性炭	廃液（貯槽）BF	約88 m^3	～10^{10} Bq	FP (Cs-137等)											
18	第二アスファルト固化体貯蔵施設（AS2）	アスフアルト固化体等の貯蔵	アスファルト固化体	ドラム缶（4本/パレット収納3段積）BF1～2F	16,213本	～10^{14} Bq	C-14 FP （I-129、Cs-137等）	B類	RC造									
			プラスチック固化体		984本		FP (Cs-137等)											
			雑固体廃棄物		19本		FP (Cs-137等)											
19	ウラン脱硝施設（DN）	ウランの脱硝						B類	RC造									
20	低放射性濃縮廃液貯蔵施設（LWSF）	低放射性の廃液などの貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液（貯槽・ライニング槽）BF	約1,055 m^3	～10^{14} Bq	C-14 FP （I-129、Cs-137等）	B類	RC造									
			リン酸廃液	廃液（貯槽）BF	約17 m^3	～10^{12} Bq	FP (Cs-137等)											
21	廃溶媒処理技術開発施設（ST）	廃溶媒，廃希釈剤の処理	廃溶媒	廃液（貯槽）BF	約6 m^3	～10^{10} Bq	FP (Cs-137等)	B類	RC造									
22	低放射性廃棄物処理技術開発施設（LWTF）	低放射性の液体及び国体廃棄物の処理	現状は放射性物質の取扱いなし。	―	―	―	―	B類	RC造									
23	ウラン貯蔵所（UO3）	ウラン製品の貯蔵						C類	RC造（屋根部はS造）									
24	除染場（DS）	汚染機器類の除染	放射性廃棄物等の貯蔵はない。	―	―	―	―	C類	RC造									

施設の基本情報												何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）						
No.	施設	A　施設の使用目的	B　主なインベントリ等 ✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等					C　建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1．設計津波が来たら何が起きるか ✓建家内浸水の可能性 ✓浸水範囲 ✓安全機能の喪失の程度	2．設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の被ば影響評価(5.の防護対策①の実施も考慮）	3．当該施設に安全上期待する機能と、そのための設備・機器	4．安全上の機能を維持すべき期間	5．設計津波に対する防護対策（防護対策①）	6．潜在リスクの大小、対策効果、緊急性を踏まえた対策の優先度	7．L2津波に対する防護対策（防護対策②）
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ			建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性							
25	焼却施設（IF）	低放射性の可燃性固体廃棄物などの焼却処理	低放射性固体廃棄物（可燃）	カートンボックス、袋 BF1～3F	約2,500kg	～10^{9} Bq	FP (Cs-137等)	B類	RC造									
			焼却灰	ドラム缶 1F	約320kg	～10^{10} Bq												
			希釈剤 （回収ドデカン）	貯槽内 BF1	約200L	～10^{5} Bq												
			廃活性炭	貯槽内 3F	約150kg	～10^{7} Bq												
26	第二低放射性固体廃棄物貯蔵場（2LASWS）	低放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物	ドラム缶 （4本/パレット収納3段積） コンテナ （3段積） BF1～2F	約4,025本	（表面線量率：≦1.0μSv/h）	FP (Cs-137等) Pu U	C類	S造									
					約7,582本	～10^{12} Bq （設計時の推定放射能量から算出）			RC造									
27	第二ウラン貯蔵所(2UO3)	ウラン製品の貯蔵						C類	RC造 (屋根部はS造)									
28	第一低放射性固体廃棄物貯蔵場（1LASWS）	低放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物	ドラム缶 （4本/パレット収納3段積） コンテナ （3段積） BF1～3F	約33,299本	～10^{13} Bq （設計時の推定放射能量から算出）	FP (Cs-137等) Pu U	C類	SRC造									
29	第三ウラン貯蔵所(3UO3)	ウラン製品の貯蔵						C類	SRC造 (屋根部はS造)									
30	リサイクル機器試験施設（RETF）	―	放射性物質の取扱いなし。	―	―	―	―	A類	SRC造									
31	排水モニタ室	放出廃液の放射能測定	放出廃液	―	―	―	―	C類	RC造									
Ⅱ．上記１．以外の施設																		
32	資材庫	浄水の供給						C類	SRC造 （一部RC造）									
33	ユーティリティ施設（UC）	冷却水・圧縮空気の供給 分離精製工場等への給電						A類	RC造									
34	中央運転管理室	蒸気の供給						―	S造									

施設の基本情報									何を守るのか（津波シナリオ、影響評価、対策等）						
No.	施設	A　施設の使用目的	B　主なインベントリ等 ✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等		C　建家の耐震/耐基準津波評価結果（どこまで何が耐えられるのか）				1．設計津波が来たら何が起きるか ✓建家内浸水の可能性 ✓浸水範囲 ✓安全機能の喪失の程度	2．設計津波により当該施設の安全機能が損われた場合の被ば影響評価(5.の防護対策①の実施も考慮）	3．当該施設に安全上期待する機能と、そのための設備・機器	4．安全上の機能を維持すべき期間	5．設計津波に対する防護対策（防護対策①）	6．潜在リスクの大小、対策効果、緊急性を踏まえた対策の優先度	7．L2津波に対する防護対策（防護対策②）
			性状・貯蔵/保管状況等	インベントリ	建家の耐震分類	構造	耐震性	耐津波性							
35	主排気筒	分離精製工場などからの廃気を排出			A類	RC造									
36	第一付属排気筒	アスファルト固化処理施設などからの廃気を排出			A類	RC造									
37	第二付属排気筒	ガラス固化技術開発施設などからの廃気を排出			A類	基礎部RC造, 筒身部鋼製									
38	中間開閉所	プルトニウム転換技術開発施設等への給電			B類	RC造									
39	第二中間開閉所	高放射性廃液貯蔵場、ガラス固化技術開発施設等への給電			B類	RC造									
40	ガラス固化技術開発施設（TVF）ガラス固化技術管理棟	ガラス固化技術開発施設への非常用電力の給電			B類	RC造									
41	発電機棟（LWTF）	低放射性廃棄物処理技術開発施設への給電			―	RC造									
42	海中放出設備	液体廃棄物の放出			B類	―									